

港北区災害ボランティア連絡会ニュース



事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸13-1吉田ビル206 港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324 FAX045-531-9561

FB 港北区災害ボランティア連絡会

103号

2022年4月



*入会は随時受け付けています。

*あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください。

防災対策基本の「キ」

棚の固定対策完了

自宅に殺される、家具に殺される

地震災害ではこのような残念な現実が起きます。家の耐震補強(もしくは耐震度の高い住居を選択する)、家具の固定、ガラス飛散防止、この三点が自宅での被害を減らす対策として言われています。しかしどれもなかなか進んでいないのが現実です。

今回当会が使っている備品棚を変えました。その目的は

- 1:地震の際倒れにくい構造にする
- 2:収納物が飛び出さないようにする
- 3:用途別に収納することで災害ボランティアセンターを円滑に開設できるようにする
- 4:団体交流室の利用者に家具固定の重要性を知らせる啓発道具とする



写真①、転倒防止装置です。前方に倒れにくくするものです。

家庭の家具の耐震性を上げる市販品には「ふんばる君」「がんばります」「不動王」などがあります。

写真②、収納物が飛び出ないようにするベルトです。

当会の道具は日常的に出し入れするわけではないのでそれほど不便ではありません。家庭の本棚用には落下抑制のため棚に貼るテープも市販されています。

写真③、棚の最上部は落下防止のため毛布を押し込んであります。

隙間なく押し込むのがポイントです。

最近地震が続いて嫌な感じがしますね。こんな時にこそもう一度自宅やオフィスの耐震性を高める対策を具体化しましょう。(宇田川)

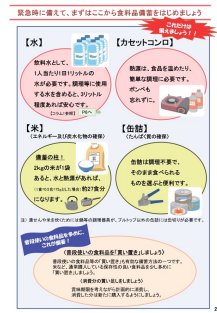
緊急時に備えた 家庭用食料品備蓄ガイド

コロナ禍である時突然自宅待機を言い渡された時、食料の備蓄はありますか？
 新型インフルエンザなどが発生した場合のガイドブックが農林水産省から発行されています。
 水と熱源を除く食料2週間分(大人2名1週間)の備蓄リストを見つけました。
https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/pdf/gaido_160511_1.pdf

- 主食 51食**
- ・米2kg(約27食) ・レトルトご飯、アルファ米14パック(14食)
 - ・即席カップ麺2個 ・乾麺うどん200g(2食)・乾麺パスタ200g(2食)
 - ・食パン2食 ・シリアル2食

- 主菜 42食**
- ・缶詰(肉)8缶・缶詰(魚)14缶 ・かつお節
 - ・豆腐(充填)4食、ロングライフ牛乳2本
 - ・レトルト ハンバーグ2パック(2食)、牛丼、親子丼4パック(4食)、
カレー4パック(4食) パスタソース2パック(2食)
 - ・麻婆豆腐の素2パック(2食)

- 副菜**
- ・缶詰(コーン、ポテトサラダ、なめこ)3個 ・野菜ジュース2本
 - ・玉ねぎ3個
 - ・にんじん1本 ・キャベツ1/2 ・ごぼう1本 ・大根1本 ・長ねぎ1本
 - ・切り干し大根1袋
 - ・インスタントスープ4食 ・カップスープ10食
 - ・缶詰(桃、みかん、パイナップル)3個 ・バナナ2本



我が家の備蓄はこの半分も満たないです。みなさまのお宅はいかがでしょう。
 日持ちする野菜や果物や調味料を多めに購入するなど心掛けていきたいと思います。
 (小澤)

イラストから感じた防災・減災 (第一回)



左のイラストは102号でもご紹介した「第一回 防災・減災イラストコンテスト」の入賞作品です。篠原小学校の生徒さんが描いてくれました。家が地震で揺れているようにも、青い顔をして怒っているようにも見えます。生徒さんはどちらの絵を描いてくれたのでしょうか。

揺れている家が困っているのか、災害対策をしていていなかったから、お腹の中で家財が揺れて、暴れて、壊れて、怒っているのか。みなさんにはどう見えますか。

イラストコンテストに応募いただいたイラストを取り上げて、イラストから汲み取れる作者の気持ちや防災への心得を書いていこうかと思います。
 (中島)

震災火災防止の切り札 感震ブレーカー

横浜市では地震火災の危険性が高いと予想される地域には感震ブレーカーの設置補助を行っています。地震が起きて避難する場合にはブレーカーを落とすよう説明されますが、緊迫した避難行動の中でそこまで思いだしてくれるかどうかは難しいところです。市はHP上で

「横浜市の最新の地震被害想定（H24.10）では、火災による死者数が1,548人となり、前回の被害想定（H17.3）から大幅に増加しています。そして、過去の大震災における火災の原因の6割以上（原因不明分除く）が電気に関係するものとされています。

本市においても強い地震が発生した時には、電熱器具等からの出火、また電気復旧時においては、断線した電気コード等からの出火が予想されます。」と説明しており、感震ブレーカーの設置を呼びかけていますが、現在の導入率は3割に留まっているそうです。

以前定例会でも「地域に呼びかけているのだが、欲しいと言ってくる方が少ない」との声がありました。私も簡易型を設置していますが、水道が使えない、消防車も瓦礫に阻まれて到着できないとなれば一軒の出火が地域に広がります。ですから地域全体に普及しないと効果が出ません。市は木造住宅密集地には助成制度を作っています。港北区では以下の地域に補助金制度が適用されます。該当地域の方は声を掛け合って、設置を進めるのが有効だと思います。

<補助金対象地域>

菊名一丁目、篠原台町、篠原町、篠原西町、篠原東一丁目～三丁目、新吉田東五丁目～六丁目、高田東一丁目、高田東四丁目、綱島西五丁目、仲手原二丁目、錦が丘、日吉本町四丁目、富士塚一丁目～二丁目

(宇田川)

「転倒防止板」知っていますか？

100均で売られている「転倒防止板」ご存じですか。TV番組でも紹介されていました。

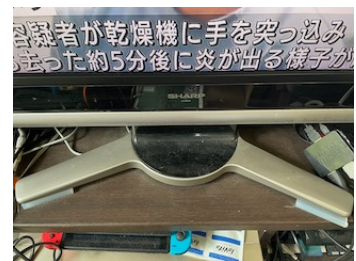
アクリルの「板」で鋏で適当な長さに切って使います。110円で45×200×厚さ9mmのサイズのものが入ります。

「こんなもの」と思いますが、想像以上に揺れに強いです。家具やTVを大きく動かすことなく、少し持ち上げて下に入れるだけなので、簡単に対策ができます。

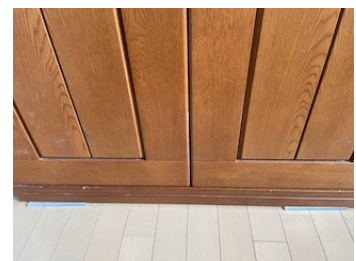
耐震金具で家具をしっかり固定するのは、結構ハードルが高いですが、これなら比較的簡単に対策ができます。もっとも、重い家具を持ち上げて下に差し込むのも、それなりに大変ではありますが、お試しいただく価値はあると思います。

レタスクラブの記事が参考になりますので、ぜひご覧ください。

<https://www.lettuceclub.net/weblettuce/article/1027921/>
(中島)



テレビの手前の足の下



クローゼット

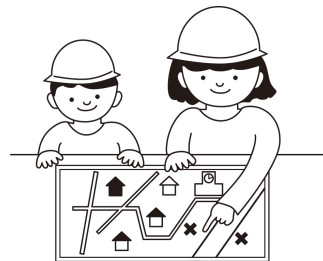
手話ができなくても

聴力の面でお手伝いが必要な方を助けるスキルとして、手話がありますが、手話ができなくても、お手伝いはできます。これは自分の実体験です。

仕事で主催しているセミナーに、聴力の面でお手伝いが必要な方が、受講したいとのご連絡がありました。職場でリーダーポジションにいる方ということもあって、受講をお断りするわけにはいきません。当日の講師から、お手伝いの要請があり、自分がお手伝いすることになりました。

私は手話できませんが、60分のセミナーの内容を持ち帰っていただき、職場に展開していただく必要がありました。そこで思い付いたのが、パソコンでセミナーの内容を同時通訳のように入力していくことでした。無論、全部は入力が追いつきません。講師と事前にセミナーの内容を打ち合わせ、ポイントを絞って入力しました。終了後、入力した内容を、メールで送ったところ「ありがとう」の返信が届きました。

手話は大切なスキルで、これができないからと尻込みしてしまう方が多いかもしれません。でも、できることでお手伝いすることが必要です。パソコンがなければ、ノート、メモ帳で十分です。自分は、プライベートの外出でも、小さなメモ帳とペンを携帯するようにしています。



(岩撫)

防災コラム

「停電時の備え」

先日(3/16)の地震(東北)では広範囲で停電が発生しました。停電になると情報収集が難しくなるほか、心理的ストレスも大きくなります。そこで停電対策です。まず懐中電灯とと思っていましたが、移動するときに両手が使えるヘッドライト、ネックライトがおすすめです。又、停電時に自動点灯する足元灯を備えるのが転倒防止に有効です。便利なアイテムが沢山出てきています。自分に合ったものを探して備えましょう。



(付岡)

【編集後記】

※感震ブレーカー設置の際は、停電時自動点灯ライトも設置を(できれば各部屋と廊下に)。(室伏)

※地震が多くなっています。いつ、お手伝いが必要な方々との生活が発生するかわかりません。(岩撫)

※このところ地震が続いています。「アッ来た！」やはり続くと恐怖を感じます。災ボラの活動を始めて20年ほどに。年齢も重ねました。改めて自分の周りを点検したいと思いました。(付岡)

※全国各地で地震が起きています。今一度、身の回りの点検をしたいと思います。(鴨下)

※「地震だ！」と思っても、揺れ始めてしまうと動けなくなるものだと、いつも思います。「すぐに避難」これが一番難しいかもしれないと・・・(中島)